



心でかく汗、
体で見る夢。

ヘルシーな心は、ヘルシーな体に宿る。
そんな実感の日々が待っています。
夢が精神をストレッチしてくれる。
夢が身体にマインドを調和させる。
そんな「生きてる時間」が流れていきます。



リオデジャネイロ五輪で力走する塚越さくら選手（本学OG） 写真：フォートキシモト

全国でただ一つの国立の4年制体育大学



国立大学法人
鹿屋体育大学

問合せ先：総務課広報係
〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
TEL：0994-46-4818
URL <http://www.nifs-k.ac.jp/>



トップページ



公式マスコットキャラクター
パララン

再生紙を使用しています。

Kanoya
National Institute of Fitness and Sports
鹿屋体育大学

2018大学案内

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 / TEL：0994-46-4818
URL <http://www.nifs-k.ac.jp/>

国立大学法人
鹿屋体育大学

Kanoya

2018 National Institute of Fitness and Sports

国立大学法人
鹿屋体育大学



RESEARCH



S P O R T S



学長からのメッセージ



鹿屋体育大学長 松下 雅雄

鹿屋体育大学では、全国でただ一つの国立の体育系大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要な不可欠なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有意の人材を輩出するとともに、体育・スポーツ科学分野における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目的としております。

この目的を実現すべく、教育、研究、社会貢献及びグローバル化という観点から、社会の信頼に応えられるよう自己改革をしつつ、個性輝く大学を目指しております。

皆さんには、キャンパスの豊かな自然環境と充実した教育研究施設の中で、各自の設定した目標を達成するよう計画的に取り組み、これから社会に必要なリーダーとしての能力を備えていただきたいと思います。

スポーツで
未来を拓く
自分を創る

真の体育系創造派になるために

- アスレティック・クリエイターになる。
- ヘルス・クリエイターになる。
- サイエンス・クリエイターになる。
- トラディショナル・クリエイターになる。
- ティーチング・クリエイターになる。
- さまざまな可能性を実現するために、今がある。
- そのためのフィールドがここにある。



未来へー
体育系創造派たちよ。

クリエイト、創造ということ。
その可能性をスポーツの分野でも
見い出すことができる人。
その夢をめざし、アクションを起こす人。
そんな若者を、私たちは体育系創造派と呼びます。
自分らしい夢がいい。遠大な夢がいい。
輝くのは、追いつける姿。
思い描く明日があるから、今日を疾走できる。

さあ、フィットネスとマインドが
調和したゴールをめざして。
南国、鹿児島からスタートの号砲が聴こえる。

Topics	2
☐ リオデジャネイロオリンピック ☐ その他TOPICS	
Introduction	6
☐ 体育学部 ☐ 大学院 体育学研究科 ☐ 連携ネットワーク ☐ 施設	
Message of Spirit	22
☐ 在学生からのメッセージ ☐ 卒業生からのメッセージ	
Campus Life	26
☐ 国際交流 ☐ 課外活動 ☐ 所在地 ☐ 福利厚生 ☐ 学生宿舎	
Data	37
☐ 学費・奨学金・傷害保険 ☐ 就職 ☐ 入試情報	

リオデジャネイロオリンピックで 本学関係者が活躍!!

2016年8月に行われたリオデジャネイロオリンピックに、競泳の松田丈志選手、自転車競技の塚越さくら選手、内間康平選手の
本学関係者3名が出場しました。

今回で4回目のオリンピック出場となった松田選手は、競泳男子800mリレーで日本チームのアンカーを務め、同種目52年ぶりのメダル獲得に貢献。自身としても2008年の北京(200mバタフライ銅メダル)、2012年のロンドン(200mバタフライ銅メダル、400mメドレーリレー銀メダル)に続いて3大会連続のメダル獲得となりました。

自転車競技女子オムニウムに出場した塚越選手は、総合結果16位となったものの得意の短距離種目タイムトライアルで6位と、初めてのオリンピックの舞台で健闘しました。

自転車競技男子ロードレースに出場した内間選手は、途中棄権となったものの、2名で構成される日本チームの中でエースの新城幸也選手の先導や風よけ、給水などアシスト役としてその役割をしっかりと果たしました。



力走する塚越選手(上)と内間選手(下) 写真：フォートキシモト



表彰台でガッツポーズを見せる日本チーム(左端 が松田選手)
写真：フォートキシモト



力泳する松田選手 写真：フォートキシモト

8月10日には本学にて競泳男子800mリレー決勝のパブリックビューイングが行われ、学生、教職員、鹿屋市民など約130名が松田選手へ声援を送り、銅メダル獲得の瞬間には会場全体が喜びに沸きました。

また、同17日には鹿屋市役所にて内間選手と塚越選手の応援イベントが開催され、鹿屋市民の方々や本学自転車競技部の学生、本学教職員が多数駆けつけ、たくさんのエールを送りました。



写真：フォートキシモト

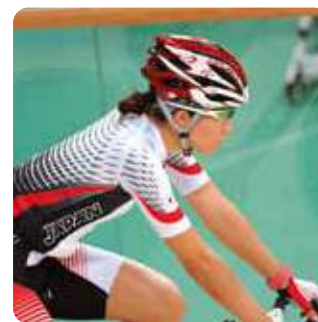
● 松田 丈志 選手

(競泳男子800mリレー銅メダル。2017年3月大学院博士後期課程単位取得退学)

2016年のリオ五輪は私にとって4度目の、そして最後の五輪となりました。得意としていた200mバタフライでは代表権が取れず、リレーでの出場でしたが、出るからには絶対結果を出す。手ぶらでは帰らない!という気持ちでした。リオ五輪に向けてトレーニングしていく中で苦しかったのは、年齢からくる衰えを感じたことです。自分は五輪でもう一度勝負できるのだろうか、そんな不安がよぎる時がありました。

その不安を払拭し、課題を明確にする為に私は鹿屋体育大学で様々な測定をやらせて頂きました。これまで蓄積してきたデータもあり、それとの比較で今の自分の課題が明確になり、その課題を克服していくことに集中しました。

今、スポーツは、科学的に数字で表せるものが増えてきています。科学にはアスリートの努力を無駄にしない、正しい方向に導く力があります。鹿屋体育大学には、これからもアカデミックな世界からスポーツ界を支えて欲しいです。



写真：フォートキシモト

● 塚越 さくら 選手

(自転車競技女子オムニウム。2014年3月学部卒業、2016年3月大学院修士課程修了)

私は、鹿屋体育大学と同大大学院で6年間を過ごし、リオ五輪に出場することができました。

大学で学んだトレーニング科学、栄養学、心理学などのすべてが競技に役立ち、最大酸素摂取量などの測定が定期的に行えたり、早朝から夜遅くまで使用できるトレーニング場があるなど、整った環境のおかげでここまで成長することができました。また、遠征や合宿が多かった時期も、先生方が親身になってサポートしてくださいました。

鹿屋体育大学でなかったら今の私はいないですし、オリンピック選手にもなれていなかったと思います。本当にこの大学で学び、活動できて良かったです。

鹿屋体育大学には素晴らしい環境があり、地域からのたくさんの愛で支えられています。これから入学を考えている皆さんや在学生の皆さんにも、その環境を生かして、大きく成長する大学生活を送ってほしいです。



写真：フォートキシモト

● 内間 康平 選手

(自転車競技男子ロード。2011年3月学部卒業)

鹿屋体育大学在学中は、恵まれた環境で練習に打ち込むことができました。また、授業で学んだ理論なども今の自分に生きています。

リオ五輪では、緊張も自分の力に変え、本番もいいコンディションで臨むことができたが、世界との差を感じる結果となってしまいました。

その差を埋めるべく、2017年からはイタリアのチーム「NIPPO・ヴィーニファンティーニ」に移籍し、世界トップレベルの選手と戦いながら技術を磨いています。2020年、再び五輪の舞台に立てよう頑張ります。



【NIFS GALLERYの紹介】

鹿屋体育大学学生会館2階のNIFS GALLERYには、本学にゆかりのあるオリンピックのメダルやユニフォームなどのオリンピックに関する資料や、本学の研究成果のパネルなどが展示されています。

近くにお越しの際はぜひ足を運んでみてください!

開館時間 月曜日～金曜日 9:30～17:00

(土日祝、年末年始は休館 ※ただし、イベント等のあるときは開館)

日本スポーツ賞「競技団体別最優秀賞」を 本学卒業生2名が受賞

2016年のスポーツ界で活躍した選手を表彰する第66回日本スポーツ賞（読売新聞社制定）の競技団体別最優秀賞を、本学卒業生2名が受賞しました。受賞したのは自転車競技の上野みなみ選手と剣道の勝見洋介選手。

上野選手は2016年11月に行われたUCI（国際自転車競技連合）ワールドカップ第1戦スクラッチと同第2戦ポイントレースで銀メダルを獲得。

勝見選手は同じく2016年11月に行われた第64回全日本選手権で優勝し、見事剣道日本一に輝きました。

日本スポーツ賞競技団体別最優秀賞を受賞することができ、大変ありがたく感じております。この受賞は鹿屋体育大学で学んだ競技に特化した研究の賜物だと自負しておりますし、現在も鹿屋を拠点に活動してきたからこそ結果だと思います。2020年自国開催の東京オリンピックに向けて最高の環境で最高の結果を出せるようにこれからも精進して参ります。



上野 みなみ 選手

2014年3月学部卒業2016年3月大学院修士課程修了。Ciel Bleu 鹿屋所属

勝見 洋介 選手

2009年3月学部卒業。神奈川県警所属

このような名誉ある賞を頂くことができ、大変嬉しく思っております。これも偏に指導して頂いた先生方、支えてくれた家族などたくさんの方々のお陰と大変感謝しております。

中々勝てない時期が続き挫けそうになりそうな時もありましたが、鹿屋体育大学で学んだ朝鍛錬夕練、主一無適の精神でこれまで諦めず頑張ることが出来たと思っています。

全日本剣道選手権で優勝することは幼い頃からの夢でした。鹿屋体育大学に進学しなければこれを叶えることは出来なかったと思います。

これからも卒業生として在校生に夢と感動を与えられるよう自己の修行を続けていきたいと思っています。



「鹿屋体育大学・ 財宝産学連携寄附研究講座」を開設

鹿屋体育大学は、株式会社財宝との産学連携により、「鹿屋体育大学・財宝産学連携寄附研究講座」を開設しました。この講座は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までの5年間、本学スポーツパフォーマンス研究棟を用いたスポーツパフォーマンス研究、健康運動プログラム研究、アスリートへのパフォーマンス向上のためのスポーツ飲料研究、アジアのスポーツ指導者及びアスリートの人材育成、さらには温泉施設を使ったウェルネスプログラムの開発などの支援を目的としており、2016年5月11日には、本学にて寄附金贈呈式が行われました。

現在は、運営拠点として、学内に財宝産学連携寄附研究講座事務局を設置し専任スタッフを中心に活動しています。



スポーツ合宿 まちづくり推進事業

鹿屋体育大学では、2010年度より「産学官連携によるスポーツ合宿まちづくり推進事業」を鹿屋市及び民間団体と連携して実施しており、本学では主に、専門機器・施設を用いたスポーツ科学的な動作測定や身体能力測定、栄養学的な観点からの食事のアドバイス、トレーニング場所の提供等で、アスリートのパフォーマンス向上に寄与しています。

2016年度には、野球、サッカー、ゴルフ、陸上など、様々な競技のトップアスリートが、本学にてトレーニングや測定を行いました。

2016 Top!cs

トピックス

鹿屋体育大学・ かごしま県民大学連携講座を実施



2016年10月4日、鹿児島市かごしま県民交流センターにて、鹿屋体育大学・かごしま県民大学連携講座が実施されました。かごしま県民大学と連携した公開講座は2016年度で12回目となりました。

今回の「みんなで貯筋～元気な老後に備えて貯金と貯筋～」には36名の参加者があり、本学の川西正志教授により、無理なく安全に自分の体重を利用して簡単に実施できる筋力トレーニングである「貯筋運動」についての実験結果や正しい実施方法について講義が行われました。

参加者からは「自宅に帰ってすぐにでも実践し、継続したい」といった声が聞かれ、大変有意義な講座となりました。

高須小学校児童へ ヨット学習指導

鹿屋体育大学では、2016年度前期授業「競技スポーツ論・実習Ⅱ・Ⅲ—海洋スポーツ」の一環として本学学生による鹿屋市立高須小学校児童へのヨット学習指導を行いました。

本授業を選択した学生は、4月当初より必要な知識を学び、指導手順等の立案、改善を行い、5月27日の事前学習指導、6月3日、11日の海での実習指導に臨みました。

学生たちは指導を通して自然体験のプログラム展開の醍醐味を経験することができました。また、学習指導を受けた高須小学校からは、「時間いっぱい海を楽しませてもらってありがたい」と感謝の言葉をいただきました。



鹿屋体育大学の教育理念（教育の方針）

鹿屋体育大学は、学生ひとりひとりを大切に、スポーツ・武道及び身体運動を基盤とした理論と実践の往還による教育を通じて豊かな教養と専門能力を授け、スポーツ・武道における学術・文化の発展と国民の体力・健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与できる実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを養成することを教育の理念とします。

この教育理念に基づき、次のとおり「アドミッション・ポリシー（求める学生像）」「カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）」「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」を定めています。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

1. 体育学を学ぶための基礎的な力を身に付けている学生

文系・理系に偏ることのない基礎学力とともに、自分の得意分野の実技能力をも身に付けている学生

2. 自己表現ができる学生

自分が身に付けた学力や実技で得た経験値を総合的に活用・応用し、スポーツ・武道および体育・健康づくりに関する新たな課題やその解決策を考察し、他者に伝えることができる学生

3. 新たな課題に挑む意欲のある学生

礼節とスポーツマンシップを身に付けた、新たな課題に進んで挑戦しようとする、感性豊かで協調性のある学生



アドミッション・ポリシーの詳細はこのQRコードへアクセス願います

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

鹿屋体育大学体育学部では、スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する実践的かつ創造的で、市民性、国際性を備えたリーダーを養成するために、課程や学生の志向性に沿って、学年進行で

1. 専門性の深化と充実

2. 社会人としての豊かな教養の涵養

3. 将来を展望し、勤労観・職業観

を醸成

できるための教育課程を編成しています。



カリキュラム・ポリシーの詳細はこのQRコードへアクセス願います

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

鹿屋体育大学体育学部のディプロマ・ポリシーでは、スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを養成するための知識・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を認定することを定めています。



ディプロマポリシーの詳細はこのQRコードへアクセス願います

授業時間

(1) 学期と授業時間割

学年を前期(4月1日～9月30日)と後期(10月1日～3月31日)に区分し、原則として学期ごとに授業科目の設定を行います。

なお、授業は、原則として各学期とも15週(試験を課す場合は16週)にわたって行います。

	第1時限 (90分)	第2時限 (90分)	第3時限 (90分)	第4時限 (90分)	第5時限 (45分)
開始	8:30	10:10	12:40	14:20	16:00
終了	10:00	11:40	14:10	15:50	16:45

前期:4月1日～9月30日 後期:10月1日～3月31日

授業は、左表のとおり行います。

集中講義や学外授業などを行うことがあります。

(2) 休業日

休業日(授業を行わない日)は次のとおりですが、休業日においても特別な場合には授業を行うことがあります。

- ① 週休日(土曜日・日曜日) 及び国民の休日に関する法律に定める休日
- ② 開学記念日(10月1日)
- ③ 夏期休業日(8月4日～9月30日) 冬期休業日(12月26日～1月7日) 春期休業日(3月11日～3月31日)
- ④ その他大学が定めた日 注:休業日においても、特別な場合には講義を行うことがあります(集中講義等)。

(3) 授業の方法

講義、演習、実験、実習もしくは実技又はこれらの組み合わせにより実施します。

「課程」と「系」

本学は、教育目標の達成に向け、体育学部にスポーツ総合課程と武道課程を設定し、各課程の中に下に示すように3つの系(柔軟なコース)を編成し、それぞれの専門に向けた勉学ができるようにしています。

スポーツ総合課程

体育・健康づくりに関する科学的な基礎知識や応用能力を有し、競技スポーツ、生涯スポーツ、健康づくりに関する専門的能力を、理論と実践の往還を通じて修得することにより、バイタリティーを持ち、国際社会の進展に対応できる実践的かつ創造的で、市民性を備えたリーダーの育成を目標とします。



アスリート・コーチング系

トップレベルの競技力の向上、ジュニア期からトップレベルまでのコーチングを行うことのできる人材を養成するコース

生涯スポーツ系

健康づくりのコーディネートやスポーツクラブ等の管理運営、プログラム開発を行うことのできる人材を養成するコース

武道課程

体育・健康づくりに関する科学的な基礎知識や応用能力を有し、我が国発祥の身体運動文化として伝承され、今日において競技文化としても広く認識されている武道、特に柔道・剣道における心と技を伝統的修練形式である稽古を通じて修得することにより、武道の精神と、国際社会の進展に対応できる実践的かつ創造的で、市民性を備えたリーダーの育成を目標とします。



武道系

武道における「こころ」と「わざ」を伝統的修練方式により学び、武道の実技指導を行うことのできる人材を養成するコース

教育課程の編成

授業科目は原則として学期完結型の科目(学期毎に単位が取れる科目)として設定しています。ただし、一部の科目については、通年科目(1年間履修して単位が取れる科目)となっています。

授業科目は、大きく①一般科目、②キャリア形成科目、③専門科目、④専攻科目、⑤教職科目の5つの科目群に区分されています。

区 分	科目群の特徴(ねらい)
①一般科目	社会の一員として適切に振る舞う態度と豊かな教養、コミュニケーション能力を身につける科目
②キャリア形成科目	スポーツリーダーとしての将来像と職業観・就業観及びキャリアデザイン力を醸成する科目
③専門科目	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する専門的な知識、実技能、科学的支援力や表現的能力及び課題解決力を身につける科目
④専攻科目	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して年齢、目的等に応じた体系的な実技能や事業運営力を身につける科目
⑤教職科目	中学校や高等学校の保健体育の教員としての免許状を取得するための専門(教科)及び教職に関する科目

さらに、これらの科目群は次のように区分されています。

区 分		科目区分の特徴(ねらい)
①一般科目	コミュニケーション科目	国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する科目
	社会・文化・自然科目	社会の一員として、人間、社会、文化自然及び環境に関する教養や態度を涵養する科目
	総合科目	社会の一員として、基礎的な情報リテラシー、表現的能力や討論力を身につける科目
②キャリア形成科目	キャリアデザイン科目	スポーツリーダーとしての将来像と勤労観・職業観を醸成する科目
③専門科目	基礎科目A(人文・社会・自然系)	体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解する科目
	基礎科目B(指導・普及系)	スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導や普及の基礎的な内容を理解する科目
	応用科目	国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につける科目
	実験演習科目	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現的能力を身につける科目
	関連実技科目	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技能を身につける科目
	ゼミナール(卒業研究)	スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける関心あるテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につける科目
④専攻科目	専修科目	アスリート・コーチング系 / 生涯スポーツ系 / 武道系 スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につける科目
	指導実践科目	アスリート・コーチング系 / 生涯スポーツ系 / 武道系 専修科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深める科目
⑤教職科目	教職	中学校や高等学校の教員としての免許を取得するための教職に関する科目
	専門	中学校や高等学校の保健体育の教員としての免許を取得するための専門(教科)に関する科目

また、授業科目は、下表のように、履修(選択)の仕方により、「必修科目」、「選択科目」、「自由科目」に分類されます。

区 分	科目区分の特徴(ねらい)
必修科目	単一の授業科目で、その修得が義務づけられている科目
選択科目	複数の授業科目のうちから指定する科目数又は単位数の修得が義務づけられている科目
自由科目	必修科目及び選択科目を除き、その修得を卒業認定の要件とされている科目

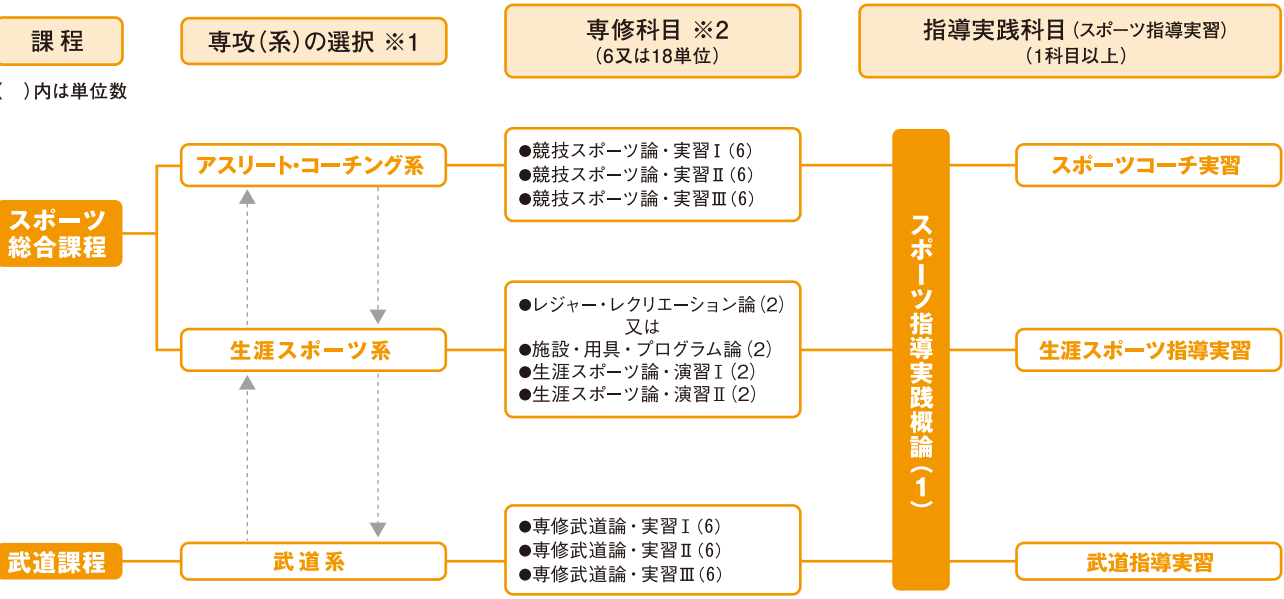
卒業所要単位数

卒業のための最低修得単位数は、①一般科目と②キャリア形成科目で38単位以上、③専門科目と④専攻科目で86単位以上、合計で124単位修得することが必要な条件(要件)として定められています。

専攻科目の系の選択

教育目標の達成に向け、専攻科目では下図に示すように3つの系を設定し、それぞれの専門に向けた勉強ができるように編成しており、課程毎に次のように系を選択することとなっています。

- ①スポーツ総合課程に所属する学生は、「アスリート・コーチング系」「生涯スポーツ系」より1系以上を選択し、履修します。
- ②武道課程に所属する学生は、「武道系」を履修します。



※1) 決められた条件の中で、1つの系以上を選択できるものとします。スポーツ総合課程では2つの系より選択できます。

※2) 各系の必修科目を示しています。

(注) 選択した系以外で履修可能な他系を ----> で示しています。

ゼミナール

左表の「③専門科目」の中に、「ゼミナール」という科目が配置されています。

ゼミナールは「ゼミナールⅠ(2年次開講)」「ゼミナールⅡ(3年次開講)」「ゼミナールⅢ(4年次開講)」の3つが開講されており、「ゼミナールⅠ」は自由科目(左の一番下の表参照)、「ゼミナールⅡ・Ⅲ」は必修科目(左の一番下の表参照)に分類されています。

ゼミナールは、シラバスと呼ばれる授業科目概要を記した冊子や、各教員の研究領域を参考にして自分が学びたい内容の教員を選び、研究を行うという科目です。選んだ教員を「指導教員」と呼び、ゼミナールとあわせて卒業に必要な「卒業研究(いわゆる「卒業論文」)までを指導教員のもとで行っていくことになります。

1人の教員が指導できる学生の数決められていますので、必ずしも希望する指導教員を選べるとは限りません。

なお、3年次編入学生の場合は、入学後すぐに指導教員を決める必要がありますので、入学前のできるだけ早い時期に本学ホームページの「研究者の紹介」で、こういった先生がどのような研究をしているかを調べておくことをお勧めします。



研究者の紹介

開設科目

本学では、8 ページ「教育課程の編成」で説明した5つの科目群ごとに次表に示す科目を開設しています。

① 一般科目

区分	授業科目名	履修年次	区分	授業科目名	履修年次	区分	授業科目名	履修年次
国際コミュニケーション科目	英語Ⅰ	1		日本事情※	1		環境論	1
	英語Ⅱ	2		現代日本事情※	2		総合演習A	3
	上級英語	3		各国文化研究	1～4		総合演習B	4
	英語コミュニケーションⅠ	1		倫理・哲学	1		総合演習C	3
	英語コミュニケーションⅡ	2	社会文化・自然科目	人権論	1	総合科目	総合演習D	2
	上級英語コミュニケーション	3		ジェンダー論	1		総合演習E	2
	中国語	3		歴史学	2		情報処理A	1
	韓国語	3		社会学	2		情報処理B	2
	国語・文章表現法	1		日本国憲法	1		情報処理C	2
	ドイツ語	3		日本文化論	1		プレゼンテーション・討論Ⅰ	2
	フランス語	3		異文化理解	3		プレゼンテーション・討論Ⅱ	3
	留学生のための英語※	1		国際関係論	4		交流リベラルアーツ	1～4
	日本語演習Ⅰ※	1		生物化学論	1			
	日本語演習Ⅱ※	2		身体科学論	1			

(注)※の科目は外国人留学生対象の科目です

③専門科目

区分	授業科目名	履修年次	区分	授業科目名	履修年次	区分	授業科目名	履修年次		
基礎科目	A	解剖生理学	1	応用科目	スポーツ産業論	2	関連実技科目	サッカー	1	
		体育・スポーツ哲学と倫理	1		スポーツ老年学	2		ラグビー	2	
		体育・スポーツ史	1		スポーツ文化論	2		水泳	3	
		健康教育学	1		スポーツトレーニング実践論	3		器械運動	3	
		運動生理学	1		体育・スポーツ行政学	3		ダンス	3、4	
		スポーツ栄養学	1		武道文化論	3		バレーボール	3	
		スポーツ社会学	2		身体発育発達論	3		柔道	1	
		スポーツ経営・管理学概論	2		スポーツ戦術実践論	3		剣道	1	
		生涯スポーツ学概論	2		社会調査論	3		エアロビックダンス	1	
	B	スポーツ心理学	1		スポーツ運営論	3		ジョギング&ウォーキング	2	
		バイオメカニクス	2		体育・スポーツ統計学	3		生涯スポーツレクリエーション&ゲームズ	1	
		衛生学・公衆衛生学	2		スポーツマーケティング論	3		テニス	2	
		スポーツ医学	3		運動処方論	3		夏季山岳レジャースポーツ実習	2	
		救急処置論・実習	2		応用スポーツ心理学	3		冬季山岳レジャースポーツ実習	2	
応用科目	A	トレーニング科学概論	2	実験演習科目	イベント管理学概論	3	ゼミナール (卒業研究)	海洋スポーツ	2	
		スポーツカウンセリング論	2		ヘルスプロモーション論・実習	4		卓球	3	
		運動学概論	2		救急法実習	1～4		バドミントン	3	
		学校保健	2		体育学実験Ⅰ(運動生理学、バイオ メカニクス、スポーツ心理学、衛生学・ 公衆衛生学、スポーツ栄養学)	1		ソフトボール	2	
		スポーツと法	3		体育学実験Ⅱ(運動生理学)	2		ゴルフ	4	
	B	コーチ学概論	2		体育学実験Ⅱ(バイオメカニクス)	2		なぎなた	2	
		障がい者スポーツ論	3		体育学実験Ⅱ(スポーツ心理学)			相撲	2	
		武道学概論	1		体育学実験Ⅱ(衛生学・公衆衛生学、 スポーツ栄養学)			弓道	2、4	
		マッサージ・テーピング論・実習	3		陸上競技			3	野外活動	2
		生涯スポーツ実践論	3		体操(体づくり運動を含む)			1	体力トレーニング	2
専門科目	A	武道史	2	関連実技科目	バスケットボール	1	ゼミナールⅠ	2		
		運動生化学	2				ゼミナールⅡ	3		
		アスレチックリハビリテーション論	2				ゼミナールⅢ	4		
	B	アスレチックリハビリテーション実習	3					卒業研究	4	

④専攻科目

区分	授業科目名			履修年次	区分	授業科目名			履修年次	区分	授業科目名			履修年次		
専修科目	アスリート・コネクション系	競技スポーツ論 実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	陸上競技	1～4	専修科目	生体スポーツ系	生体スポーツ論・ 演習Ⅱ	コミュニケーションスポーツ	3	専修科目	指導実践科目	スポーツ指導実践概論	1			
			水泳	1～4				自転車競技	1～4			健康・体力	3	スポーツコーチ実習	3	
			体操競技	1～4				レジャー・レクリエーション論	2			野外教育	3	生体スポーツ指導実習	3	
			バレーボール	1～4				施設・用具・プログラム論	2			専修武道論・ 実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	柔道	1～4	武道指導実習	3
			バスケットボール	1～4				コミュニケーションスポーツ	3				剣道	1～4	SCO-OP実習	3～4
			サッカー	1～4				生体スポーツ論・ 演習Ⅰ	健康・体力				3			
			テニス	1～4				野外教育	3							

⑤教職科目

区分	授業科目名		履修年次	区分	授業科目名		履修年次	区分	授業科目名		履修年次
教職科目	教職	教師論	1	教職科目	教職	教育法・教育行政	3	教職科目	専門	保健体育科教育法Ⅱ	2
		教育心理学	2			生徒指導論	3			保健体育科教育法Ⅲ	3
		道德教育の研究	2			教育課程論	3			保健体育科教育法Ⅳ	3
		特別活動論	2			教育相談・カウンセリング論	3			教育実習Ⅰ	4
		教育方法・技術	2			介護等体験	3			教育実習Ⅱ	4
		教育史	3			保健体育科教育法Ⅰ	2			教職実践演習(中・高)	4

教育職員免許状、資格・受験資格等

(1) 本学で取得できる教育職員免許状

本学の授業科目の履修状況によって、下記の免許状を取得することができます。

	免許状の種類	資格認定団体等	職務内容等
免許状	中学校教諭一種免許状	各都道府県教育委員会	中学校・高等学校の保健体育の教諭
	高等学校教諭一種免許状		

(2) 本学で取得できる資格・受験資格等

①各種公認スポーツ指導者

下記資格取得のためには、本来は(財)日本体育協会や各種加盟団体が実施する講習会を受講し、検定試験に合格しなければなりません。本学は課程認定を受けていることから、指導者資格ごとに指定された本学の授業科目を履修すれば、講習会の一部が免除されます。以下に各種公認スポーツ指導者の種類と職務内容等について記します。

(スポーツ指導基礎資格)

資格の種類	資格認定団体等	職務内容等
スポーツリーダー	日本体育協会	地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたります。

(競技別指導者資格)

資格の種類	資格認定団体等	職務内容等
指導員	日本体育協会	・地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に、競技別の専門的な知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたります。 ・特に発育発達期の子どもに対しては、総合的な動きづくりの主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導にあたります。 ・地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたります。 ・施設開放において利用者の指導支援を行います。
コーチ	日本体育協会	・地域において、競技者養成のための指導にあたります。 ・広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたります。 ・広域スポーツセンターの巡回指導に協力し、より高いレベルの実技指導を行います。
教 師	日本体育協会	・商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として、質の高い実技指導を行います。 ・会員(顧客)が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供します。

(フィットネス資格)

資格の種類	資格認定団体等	職務内容等
ジュニアスポーツ指導員	日本体育協会	地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通した身体づくり、動きづくりの指導を行います。
スポーツプログラマー	日本体育協会	主として青年期以降の全ての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行います。

(マネジメント資格)

資格の種類	資格認定団体等	職務内容等
アシスタントマネージャー	日本体育協会	総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネージャーを補佐し、クラブ経営のための諸活動をサポートします。

(各種加盟団体等の資格)

資格の種類	資格認定団体等	職務内容等
日本サッカー協会公認Cコーチ	日本サッカー協会	地域においてスポーツ活動を実施しているクラブやグループ、スポーツ教室で、サッカーの基礎的な技術や一般的な身体運動の指導を行います。
全日本剣道連盟公認社会体育指導員(初級)	全日本剣道連盟	地域において、剣道活動を実施している学校・道場・クラブ・グループ・スポーツ教室等で剣道の指導にあたります。

②健康運動実践指導者

資格の種類	資格認定団体等	資格の概要
健康運動実践指導者	健康・体力づくり事業財団	健康づくりのための運動指導者の一つで、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術等をもち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビックダンス、水泳及び水中運動等のエアロビック・エクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことができる資格です。

③健康運動指導士

資格の種類	資格認定団体等	資格の概要
健康運動指導士	健康・体力づくり事業財団	メディカルスタッフと連携し、メタボリックシンドロームの予防、生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢社会を踏まえた介護予防のための運動指導にあたります。

④その他の資格等

資格の種類	資格認定団体等	資格等の概要
イベント検定	日本イベント産業振興協会	的確なオリエンテーションを行って、より適切で効果的なイベントを実施する「イベントについての体系的な基礎知識を持つ人材」を養成することを目的とした検定です。
レクリエーション・インストラクター	日本レクリエーション協会	さまざまな遊びのメニューと提供技術を持ち、楽しさの体験を多くの人に提供できる人材を養成するための資格です。
レクリエーション・コーディネーター	日本レクリエーション協会	地域におけるスポーツ活動を支援し、仲間づくりや人々のふれあい活動を推進する資格です。

大学院体育学研究科(体育学専攻)の目的

鹿屋体育大学大学院体育学研究科(体育学専攻)は、スポーツ・健康に関する学術の理論及び応用と実践が一体となった教育研究を展開し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した学力を培い、スポーツ文化の進展及び国民の健康の増進に寄与することを目的としています。

これらの目的を達成するため、次のとおり「アドミッション・ポリシー(入学受入方針)」 「カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)」並びに「ディプロマポリシー(学位授与の方針)」を定めています。

アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

【修士課程】

大学院体育学研究科(体育学専攻)修士課程では、スポーツや身体運動を通して、国民が健康で幸福を享受できる社会の構築に貢献する専門的・実践的な能力の養成及び職業人として中核的な役割を担う人材の育成を目指しています。

【博士後期課程】

大学院体育学研究科(体育学専攻)博士後期課程では、体育学に関する最先端の研究活動を推進するとともに、スポーツや身体運動を通して、国民が健康で幸福を享受できる社会の構築に貢献できる高度な専門的能力を有する人材の育成を目指しています。



アドミッション・ポリシーの詳細はこのQRコードへアクセス願います

カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

【修士課程】

体育・スポーツ、健康に関する科学的及び実践的な教育研究領域において、特に社会的要請の強い分野を中心とした専門性の高い職業人の養成、研究者の養成及び社会人の再教育を目的とした多様なカリキュラムを編成しています。また、教育目標に沿った教育を効果的に行うため、授業科目を「共通コア科目」「基礎科目」「応用科目」に区分して設けています。

【博士後期課程】

生涯スポーツや競技スポーツの分野において、関連する諸科学等の研究の進展の成果を学際的・統合的に把握して、これまでにない学際領域の分野を開拓し、実践に結びつけることができる独創性のある高度専門指導者の養成を目的として、スポーツ・健康に関する学術の理論及び応用と実践が一体となった教育研究を展開するために、「共通領域」「スポーツ総合科学領域」「スポーツ文化・社会科学領域」「スポーツ生命科学領域」により教育課程を編成しています。



カリキュラムポリシーの詳細はこのQRコードへアクセス願います



カリキュラムポリシーの詳細はこのQRコードへアクセス願います

ディプロマポリシー(学位授与の方針)

【修士課程】

スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えた高度な専門的指導者や研究者を育てるための知識・能力を身につけ、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を認定します。なお、学位論文に代えて特定課題の研究成果とすることも可能です。



ディプロマポリシーの詳細はこのQRコードへアクセス願います

【博士後期課程】

生涯スポーツや競技スポーツの分野において、関連する諸科学等の研究の進展の成果を学際的・統合的に把握して、これまでにない学際領域の分野を開拓し、実践に結びつけることができる独創性のある高度専門指導者を養成するための知識・能力を身につけ、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を認定します。



ディプロマポリシーの詳細はこのQRコードへアクセス願います



多様な教育プログラム

大学院体育学研究科では、さまざまなニーズに対応した多様な教育プログラムを下記のとおり用意し、多様な人材の入学をお待ちしております。

・スポーツ国際開発学共同専攻(修士課程)

スポーツというツールを用いて、国内外で生じている課題の解決に貢献できる人材の育成を目指す修士課程です。本学と筑波大学・日本スポーツ振興センターの三機関が共同して、スポーツを通じた国際開発と平和に関する実践的能力を養う教育プログラムを提供します。学修はすべて英語で行われるのが大きな特色です。

・国立スポーツ科学センター(JISS)との連携大学院(博士後期課程)

国立スポーツ科学センター(JISS)を主な勉学の間として、同センターの特色を生かした授業科目の履修及び研究指導を受け、鹿屋体育大学大学院の博士(体育学)の学位取得を目指すものです。

・体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム(博士後期課程)

本学大学院体育学研究科(博士後期課程)を中心として、体育系の修士課程を有する熊本大学と鹿児島大学の大学院教育学研究科とが連携・協力して、鹿屋体育大学大学院の博士(体育学)の学位取得を目指すプログラムです。

・大学体育スポーツ高度化共同専攻(3年制博士課程)

大学体育スポーツの充実のために、教育指導と研究の循環を高度に展開できる能力育成を軸とした教育指向型の博士課程です。本学と筑波大学とが共同設置しており、一部の科目を除き、遠隔講義システムを利用して、それぞれの大学で開講する授業を受講できるのが特色の一つです。

・東京サテライトキャンパス社会人コース(修士課程、博士後期課程)

各競技においてトップレベルのコーチやアスリートとして活躍している人や体育系の教員らが、その技術に関する実践的指導能力と高度な科学的研究能力を東京に在住しながら修得できるようにすることを目的として、東京サテライトキャンパス社会人コースを夜間に開設しています。

連携ネットワーク

Cooperation Network

本学では、いろいろな機関と、ネットワークを構築し、さまざまな教育プログラム等の事業を展開しています。

●東京サテライトキャンパス社会人コース (修士課程・博士後期課程)

●東京サテライトキャンパス



授業風景

(筑波大学・鹿屋体育大学連携推進室)

●国立スポーツ科学センター (JISS) との連携大学院 (博士後期課程)

●国立スポーツ科学センター



研究発表の様様

JAPAN SPORT COUNCIL
日本スポーツ振興センター

●スポーツ国際開発学 共同専攻 (修士課程)

- スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)
- 大学体育スポーツ高度化
共同専攻 (3年制博士課程)

●垂水市



協定締結式の模様

●南の拠点 整備事業等

●鹿屋体育大学



●鹿屋市



鹿屋市とのスポーツ合宿の模様

●スポーツ合宿・ まちづくり推進事業等

●国立大隅青少年自然の家



新入生合宿研修の模様

●連携・協力

●熊本大学 大学院教育学研究科



●体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム (博士後期課程)

●鹿児島大学 大学院教育学研究科



●筑波大学



トップクラスの
充実環境。



学生宿舎 (36頁参照)

施設

Campus and Facilities



① 陸上競技場

全天候型の400mトラックで競技会ができる3種公認競技場です。



② サッカー場・ラグビー場

公式競技用としての広さを有し、サッカー場・ラグビー場それぞれ全面芝生張で照明設備も設置されています。



③ テニスコート

ハードコート、オムニコートがあり、照明設備も設置されています。



④ 野球場

両翼92m、中堅117mあり、スコアボードは本部席から操作できるように判定表示装置が設置されています。



⑤ トレーニング場

主に屋外競技用のトレーニング施設で、科学的トレーニングを行うための各種ウエイトトレーニング機器等が設置されています。



⑥ 球技体育館

室内競技専用の体育館で、バレーボール（バスケットボール）、バドミントン、卓球の専用室があります。



⑦ ゴルフ練習場

南側の丘陵斜面に設置され、打席数は11、フェアウェイは130m×38mの広さです。



⑧ 屋内実験プール

泳ぎについて科学的に教育研究活動が行えるよう最新鋭の設備機器と50m長水路、25mの短水路のコースを備えた日本で唯一の実験プールです。（詳細は18頁）



⑨ 総合体育館

総合体育館は各種公式競技に対応できるよう設計されており、主体育室は球技用としてバスケットボール2面、バレーボール2面、テニス2面、ハンドボール2面、バドミントン8面の競技が可能なスペースを確保でき、また、450名収容可能な移動観覧席が2か所に設置されています。その他、体操練習室、ダンス練習室、トレーニング室があります。



⑨ 体操練習室

総合体育館2階にある体操練習室には、体操競技に必要な器具・設備が設置されています。（詳細は18頁）



⑩ 武道館

武道の継承、振興及び競技力の向上を目指す本学武道課程の中心施設で、1階に柔道場と相撲場、2階に剣道場、武道館に隣接して弓道場があります。



⑩ 柔道場

武道館には、公式競技が同時に2面可能な342畳敷の柔道場、さらにサブ道場（136畳敷、ウエイトトレーニング用機器常置）も設置されています。



⑩ 剣道場

武道館には、公式競技が2面可能な剣道場及びサブ剣道場があり、床は松材です。



⑪ スポーツパフォーマンス研究棟

本学が推進するスポーツパフォーマンス研究の拠点施設（詳細は19頁）

携帯から施設のページにアクセス！！ <http://www.nifs-k.ac.jp/outline/facilities/school.html>



屋内実験プール

単に水泳競技用だけでなく、「泳ぎ」について運動力学、運動生理学的見地から科学的に教育研究活動が行えるよう最新鋭の機器を備えた施設です。1階は、水泳、シンクロナイズドスイミング、高飛び込み競技や50m長水路の公認プール(8コース)、25m短水路の公認プール(8コース)のほか、実験研究用コース(3コース:ミラー、ペースメーカー等の実験用器材を設置)、飛び込み台(5m、3m、1m)、可動式床(水深0m～2m調整可)、水泳フォームをあらゆる角度から分析できる加減圧調整可能流水プール、データ解析室等の設備を備えています。また、2階はミーティングルームのほか、上部からもビデオ撮影及び見学ができるキャットウォークも設置されています。なお、水温は常時27℃に調整され、薬剤注入や滅菌が自動的にできる循環濾過装置も設置されています。



体操練習室

体操練習室には、ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒・平均台・段違い平行棒・競技用トランポリン等の体操競技に必要な器具・設備が設置されており、公式競技にも対応可能となっています。また、安全性に配慮したピット(体操競技における技の練習で選手が落下した場合の安全を確保するためにウレタンを敷き詰めた練習施設)も設置されており、安全かつ積極的な練習に取り組める環境が整っています。



スポーツパフォーマンス研究棟 (通称: SP Lab)

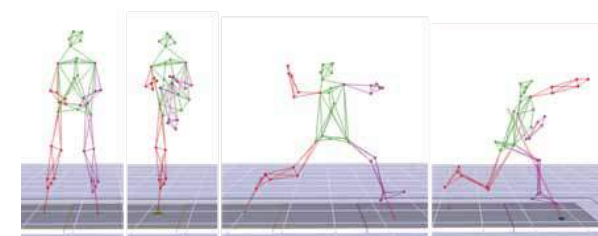


(注1) フォースプレート: 歩行や走行など動作をする際にかかる力量を測定できる機器



(注2) 投打マルチ解析システム: フォースプレート完備のピッチャーマウンド・バッターボックスで、ピッチャーとバッターの同時測定が可能(写真はマウンド)

平成27年3月に設置されたスポーツパフォーマンス研究棟(SP Lab)は国内初となるスポーツ分野のコーチングに特化したパフォーマンス研究の科学的検証を行う最先端研究設備を備えた屋内研究施設です。陸上、テニスなどの個人種目に限らず、野球やサッカーなどのチーム種目における身体活動量測定やゲーム分析をはじめ、多様なスポーツパフォーマンス測定に対応可能です。測定室となる測定アリーナは、面積約3,500㎡、有効高さ15mで、床面は屋外球技用の人工芝と、陸上用のウレタン走路とで構成されています。SP Labには、世界最長50mのフォースプレート(注1)、投打マルチ解析システム(注2)、モーションキャプチャシステム(注3)、オブジェクトトラッキングシステム(注4)等の最新の測定機器が設置されています。



(注3) モーションキャプチャシステム: 反射マーカーの三次元位置情報をデジタルデータとして取得できる機器



(注4) オブジェクトトラッキングシステム: 選手に装着したセンサーから座標位置、移動速度、身体の向き、心拍数などの情報を無線方式でかつリアルタイムに測定可能な機器



海洋スポーツセンター

Center for Water Sports and Sciences

海洋スポーツに関する理論教育・実技指導及び研究活動を行うほか、広く海洋スポーツに関する研修会・講習会の開催、課外活動等にも活用し、実践的指導者の養成、競技力の向上及び生涯スポーツとしての底辺拡大を目指しています。

また、海洋スポーツを通じた諸外国の指導者や競技者との国際交流に資することも目的としています。

スポーツトレーニング教育研究センター

Center of Sports Training Research and Education

高度な測定機器やトレーニング機器を本センターに集中的に配置し、学内共同利用施設として、教員はもとより学部生や大学院生が自由に施設を活用して、トレーニングの研究や実践を行う場を提供しています。また、各種のトレーニングの意義や効果を科学的に分析・評価するために、様々な研究プロジェクトも行われています。

たとえば、発育・発達段階に応じた一般児童生徒の体力づくりや、ジュニアアスリートのトレーニングの新たな方法を開発するために、地域の小・中・高等学校と連携して体力測定を行い、そのデータに基づいたトレーニングを長期的な視点で行っています。また、様々なスポーツ種目に携わる本学の選手や国内の一流選手を対象として、同様の研究も行っています。これらの研究成果を講習会、学術誌、広報誌などを通じて、学内外に情報発信しています。



多彩に広がるスポーツ環境。

Facilities

施設



■LL1教室(グローバル支援語学学習システム・46ブース)

国際交流センター

International Exchange and Language Education Center

グローバルに活躍し得る人材養成を目的に、2つのLL教室や多読用図書を活用し、外国語教育(英語、ドイツ語、中国語、韓国語、留学生対象の日本語)や異文化理解に関する教育研究を行っています。

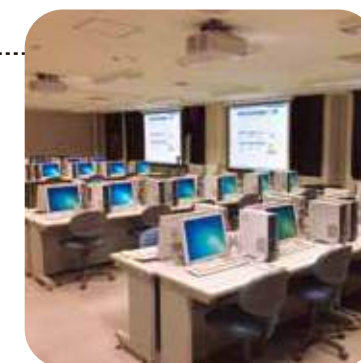
また、学生や教職員の外国語の学習・研究のための利用や大学間交流協定校からの留学生の受け入れ及び本学学生の派遣等国際交流事業を推進するとともに、地域社会への公開講座なども開講しています。

スポーツ情報センター

Information Technology Center for Sports Sciences

情報通信技術を用いた教育と研究を支援するとともに、情報の発信を通じて体育・スポーツの進展に寄与することを目的としています。

各種のネットワークサービスをはじめ、三次元動作分析装置や高速度カメラなどスポーツ科学の実験設備を利用者に提供しています。情報処理演習室は平日22時まで開室しており、研究情報の収集やレポート作成など、連日多くの学生に利用されています。



光学式3次元モーションキャプチャ

生涯スポーツ実践センター

Interdisciplinary Research Center for Lifelong Sport and Physical Activity

生涯スポーツに関する実践指導と学際的な研究・教育を広く社会との連携を図りながら行うことを目的としています。

主に、人々の各ライフステージに応じた運動・スポーツプログラムの開発・指導、地域のスポーツ振興や健康づくり、地域スポーツプログラムの育成支援、生涯スポーツ指導者の育成支援、運動・スポーツプログラムの地域社会への効果の測定などに関する教育研究を行っています。

附属図書館

Library

附属図書館では、教育研究活動に必要な専門図書や一般教養図書のほか、体育・スポーツ、レクリエーションや武道分野の雑誌、映像資料等DVDも数多く所蔵しています。電子ジャーナル、英文多読に最適な電子図書も利用できます。また、グループ学習室もありタブレットPCを使ったグループディスカッションなど学生の自学自修の場としても活用されます。

■附属図書館ホームページ <http://www.lib.nifs-k.ac.jp>





夢に向かって日々精進

私は鹿屋体育大学の充実した環境と施設に魅力を感じ、「ここでなら日本一、いや、世界が狙える!」と考え、入学を決めました。

入部したバレーボール部では、謙虚さも大事にし、日々頑張っています。

どの競技もレベルが高いため私自身非常に刺激を受けることが多く、競技力向上に繋がっています。

また、勉学の面では、身体の作りや栄養学、トレーニング方法などを学ぶ事ができ、競技に活かすことができます。この素晴らしい大学でみなさんも夢に向かって頑張りましょう!

中山 恭佳

Nakayama Kyoka

スポーツ総合課程3年
平成27年度AO(SS)入試
熊本信愛女学院高等学校出身
女子バレーボール部所属

在学生からのメッセージ

Messages from Students

自分の力で未来へ

私は鹿屋体育大学柔道部のチームワークの良さに惹かれ、整った環境のなかで競技に集中したいと思い、鹿屋体育大学への入学を決意しました。現在は『鹿児島から日本一、鹿屋から世界へ!!』というチームスローガンのもと、部員全員が一丸となり、稽古に打ち込んでいます。

鹿屋体育大学は最高の環境を提供してくれているので、競技者としてレベルアップできるのは勿論ですが、様々な競技に打ち込む多くの仲間と交流を深めることができ、人としても大きく成長できるという、少数精鋭の大学ならではの良さもあります。

堀 歩未

Hori Ayumi

武道課程4年
平成26年度AO(SS)入試
敬愛高等学校出身
柔道部所属



鹿屋の地から世界の国へ

私はスポーツを通じた地域開発や国際貢献に興味を持ち、鹿屋体育大学に入学しました。友達や先輩と夢を語る時間、新しい知識を得る授業、そして、親元を離れた環境での生活など、鹿屋で過ごす時間の全てが刺激的で、自分の可能性を広げ、成長させてくれているものと日々感じています。

この地独特の歴史、美しい自然、温かい人に囲まれ、地域に愛されながら、さまざまなことを、感じ・考え・学び・挑戦できるこの環境が好きです。ひとつでも多くのことを吸収できるように、しっかり学び、楽しんでいきたいです。

現在は協定校である韓国体育大学校で社会体育を専攻し、日韓、また世界の、スポーツを通じた平和的交流の在り方、スポーツイベントによる地域開発の影響・理想などを学んでいます。

後藤 真奈佳

Goto Manaka

スポーツ総合課程2年
平成28年度 一般入試
東京都立国際高等学校出身



夢への通過点

私は現在、自転車競技部にスタッフとして所属しています。主な仕事は、練習のサポートと選手のコンディション管理です。鹿屋体育大学に編入学する前は、専門学校でスポーツトレーナーの基礎学習をしてきたので、その知識を活かしながら活動しています。トレーナーとしての経験を積むことができたり、競技力の高い選手達から刺激をもらうことができたりする、とても良い環境にいられることに感謝しています。これからも、選手の競技力向上に貢献できるよう勉強を重ねていきたいです。

岡野 春香

Okano Haruka

スポーツ総合課程4年
平成28年度 第3年次編入学
福岡県立筑前高等学校出身
自転車競技部所属



素晴らしい環境のもとで

私は鹿屋体育大学を卒業後、海外生活を経て大学院に復学しました。海外での経験をもとに大学院でより専門的な勉強をしたいと思ったからです。鹿屋体育大学大学院の魅力は、「様々な研究施設や機材を普通に使用できる点」です。研究を行いながらサッカー部でもコーチとして活動しており、「経験からだけではなく、科学的な根拠をもとにもスポーツを語れる」という目標のもと、日々精進しています。

村川 大輔

Murakawa Daisuke

大学院体育学研究科 修士課程
体育学専攻2年
平成26年度入学
大阪府立四條畷高等学校卒業



可能性を信じて

『オリンピックは夢。とにかく1秒でも速く泳げるようになりたい』が、私の志望理由でした。なので、入学当初はオリンピックについてはほとんど考えた事ありませんでした。

ただ、1回1回の練習に全力で向かい、1日1日を積み重ねていった結果、夢だったオリンピックが目標に変わり、オリンピックの舞台に立つ事ができていました。

鹿屋体育大学は、自分が持っている力を最大限に引き出してくれる場所だと思います。ぜひ、鹿屋体育大学に入学をして、自分の可能性を広げていってほしいと思います。



アテネオリンピック 競泳女子800m自由形金メダリスト

柴田 亜衣

Shibata Ai

平成17年3月 体育学部 体育・スポーツ課程卒業
平成21年3月 大学院 体育学研究科 修士課程修了
平成23年4月 鹿屋体育大学 広報アドバイザー
平成23年4月 株式会社プラミン所属
(柴田亜衣オフィシャルFacebook更新中)

卒業生からのメッセージ

Messages from Graduates

今の自分をつくってくれた場所

長年住んでいた地元を離れ、鹿屋に来ることにはじめは不安がありました！ですが、先輩も優しく、町の方々も温かく、1カ月もすれば、とても住み心地の良い場所になりました。

大学の先生方や施設も素晴らしく、充実した講義を受けられます。

私はこのような鹿屋の良いところを最大限に活かして、今何をすべきかを考え、大学生活に没頭しました。

そして、サッカー選手になるという夢を叶えました。

鹿屋体育大学に入学し、最高の環境で自分の夢に向かって努力し、その夢を叶えてください！鹿屋体育大学はそれを実現できる場所です！

日本プロサッカーリーグ サガン鳥栖MF

福田 晃斗

Fukuta Akito

平成27年3月 体育学部 スポーツ総合課程卒業



©SAGAN DREAMS CO., LTD.

人生を切り拓く

「野球を続けたい」その一念で就職活動をして現在の会社に就職しました。業務終了後、日本一を目指して毎日練習に励んでいます。今ではたくさんの企業、地域の方々から応援をいただき、野球を続けられています。

在学中は、最新の理論や施設を活用しながら日々の練習に取り組んでいました。スポーツに集中でき、その「道」を究めたいという人には最適な環境です。

スポーツで自分の人生を切り拓けるよう、皆さんも努力し続けてください。

株式会社 昂 人事総務部人事担当 鹿児島ドリームウェーブ所属

真井 大樹

Mai Daiki

平成27年3月 体育学部 スポーツ総合課程卒業



チャレンジすることの大切さ

現在、フェンシング日本代表のスポーツアナリストとして活動をしています。

学部生時代はサッカー部の学生トレーナーとして活動しながら、勉強に励んでいました。

大学院進学後の研究テーマも傷害予防に関するものでしたが、まさかフェンシングで、しかも、スポーツアナリストとして活動することになるとは夢にも思いませんでした。

しかし、本学で得たチャレンジすることの大切さと、部活や学生トレーナー、研究で得た経験などが、トップアスリート・コーチを支える今の仕事に活かされていると感じています。

独立行政法人日本スポーツ振興センターパフォーマンス分析スタッフ (2017年3月現在)

千葉 洋平

Chiba Youhei

平成17年3月 体育学部 体育・スポーツ課程卒業
平成19年3月 大学院体育学研究科 修士課程修了



左が筆者

多くの経験が将来に繋がる4年間

私は現在、皇宮警察本部坂下護衛署において、天皇皇后両陛下や皇族各殿下の護衛及び皇居の警備を行う中で、側衛白バイ隊員として天皇皇后両陛下の地方行幸啓に従事することを目標に、日々、白バイ訓練を行っています。

在学中は、テニス部に所属しながら、部活動に、勉強にと様々なことを学び、経験しました。皇宮護衛官になった今も鹿屋で得た経験は活きていると感じています。

見知らぬ土地での生活は、不安も多いと思いますが、共に過ごす仲間たち、これからチャレンジする多くの経験は将来かけがえのない宝物となります。ぜひ、みなさんも充実した大学生活を鹿屋の地で送ってみてください。

皇宮警察本部 坂下護衛署

斧 志津江

Ono Shizue

平成23年3月体育学部 スポーツ総合課程卒業



鹿屋は人生の可能性を広げる

鹿屋体育大学には、トップアスリートや名門校出身の学生、全国でも名高い教授陣等、錚々たる人員が集っており、当時の私は、運動生理学や教育学等を学び、全国各地で多くの選手や一般の方々と触れ合う機会をいただきました。また、カナダでバレーボールコーチとして活動する幸運も与えられました。さらに、教育実習では、「自分は子供が好きなんだ」と確信しました。この大学生活は、私に貴重な人生経験を授け、前向きに生きることの大切さに気付かせ、自らの人生の可能性を広げました。その後、スポーツに関わる仕事に就きたいと思っていた私は、保健体育の教師になり、現在は中学校の教頭職を拝命しています。

鹿屋体育大学は「体育」を中核としながら幅広く学べる場所であり、皆さんの人生の可能性を広げる希有な場所なのです。



鹿児島大学教育学部代用附属 鹿児島市立伊敷中学校 教頭

松本 眞一

Matsumoto Shinichi

平成3年3月 体育学部 体育スポーツ課程卒業

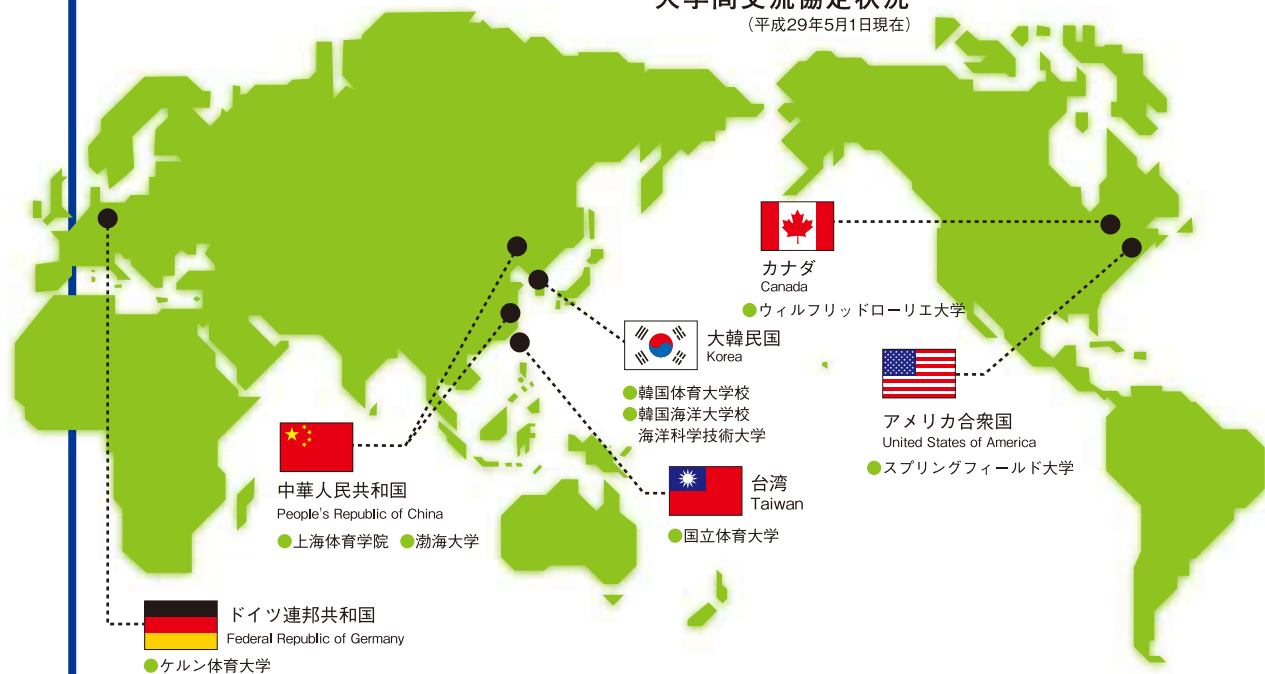
国際交流

本学は、下の地図に示す8つの大学と大学間交流協定を結んでいます。このうち、上海体育学院（中華人民共和国）、韓国体育大学校海洋科学技術大学（大韓民国）、国立体育大学（台湾）並びにウィルフリッドローリエ大学（カナダ）の4つの大学と学生交流（交換留学）を行っています。交換留学生は、学内で選考し決定しますが、交換留学の期間は1年以内で、派遣留学生数は1大学につき2名までとなっています。

留学の意義を考慮し、留学先で修得した授業科目等の単位をできる限り本学で取得した授業科目として認定するための取扱いも定めています。

なお、留学先での奨学金貸与を希望する場合は、独立行政法人日本学生支援機構の「第二種奨学金（短期留学）」制度に申し込むことができます。

大学間交流協定状況
(平成29年5月1日現在)



外国人留学生在籍状況 (平成29年5月1日現在) 単位:人

国・地域	学生区分別内訳				計
	大学院生	学部学生	特別聴講学生	研究生	
ギリシャ	1				1
エクアドル	1				1
中華人民共和国	1	1			2
台湾		1	2		3
大韓民国			2		2
計	3	2	4	0	9

※「特別聴講学生」は、交換留学制度により交流協定大学から本学へ留学している学生です。



外国人留学生見学旅行のーコマ (鹿児島市仙巖園にて)

鹿屋体育大学国際スポーツ・アカデミー形成支援事業

本事業は、文部科学省が公募した「スポーツ・アカデミー形成支援事業」に申請して採択された事業で、平成26年度から事業を開始しております。

本事業では、日本を含むアジア諸国におけるオリンピック教育プログラムの開発と、アジア各国にグローバルな人材を育成することを目的としています。その目的の達成に向け、国内外の大学や関係機関と連携し、主にアジア諸国の大学院レベルの学生や、各国のオリンピック委員会からの推薦が得られるトップコーチ、指導者を対象とした短期の国際セミナーを年1～2回開催しています。



海外インターンシップ参加者からのメッセージ

海外インターンシップに参加して

私は、鹿屋体育大学・筑波大学大学院共同学位プログラムで「スポーツ国際開発学」を学びました。この学問は日本では研究途上の段階であり、より一層知見を深めるため、トビタテ！留学Japan4期生として、ドイツ（4/1～7/31）とカンボジア（9/18～10/1）の2ヶ国でインターンシップを行いました。ドイツではクライス・ノイス郡市民スポーツ課、ドイツ体育大学ケルンに受け入れていただき、スポーツ国際開発学の原理について学ぶとともに修士論文作成のための調査を行いました。また、カンボジアでは、プロサッカーチームであるカンボジアンタイガーFCに受け入れていただき、子供たちにボールを配るプロジェクトや孤児院訪問、グッズの企画などの活動に参加しました。

2つのインターンシップを通して、文化や風習の違い、言語の壁、様々な悩みや問題に直面することも多々ありましたが、実際に現地に行かなければ学べないことを沢山学ぶことができ、非常に貴重な経験をすることができました。この経験を活かし、今後も勉学に励んでいきたいと思うと共に、本学から海外に飛び立つ学生が増えることを願っています。



前列右端が筆者

河野 葉月

Kono Hazuki
体育学研究科修士課程修了生



前列右から2人目が筆者

高橋 歩生

Takahashi Ayuki
体育学部スポーツ総合課程3年生

交換留学参加者からのメッセージ

台湾への留学で分かったこと

皆さんも一度は、「台湾は親日国である」ということをニュース等で聞いたことがあり、なんとなく台湾は親日国というイメージはあると思います。私も台湾へ交換留学する前はその程度の認識でした。実際に台湾で生活してみると、看板に日本語が書かれていたり、片言だが日本語を話せる台湾人も多くいたり、親日と感じることはありましたが、親しいというより、ただ日本が好きという印象が強かったです。

そんな中、その認識が間違いだったと気づかされる、ある出来事が起きました。2016年4月14日に起きた熊本地震です。ニュースは台湾でも大きく取り上げられ、各地で寄付を募ったり、どの国よりも早く日本に義援金が送られました。また、義援金は東日本大震災のときも送られており、その総額は200億円を超え、世界一です。このことを知らない日本人は多いと思います。私も留学中に熊本地震が起きたことをきっかけに初めて知りました。なので、台湾をただ単に親日国と認識するのではなく、台湾と日本はこのような親密な関係にあることを理解して欲しいです。

留学生からのメッセージ

鹿屋体育大学に交換留学に来て

こんにちは！去年9月末、交換留学生として台湾国立体育大学から来ました陳冠宇です。台湾で、野球部の部員だったので、日本の野球文化に興味があり、鹿屋体大の硬式野球部に入りたいと思っていました。監督に相談し、すぐ練習に参加させてもらいました。毎日、授業が終わったら、すぐ部活に行き、たくさん練習して、いい生活リズムです。

自分のポジションはピッチャーなので、ラントレーニングがいっぱいありました。最初参加した時、足と腿がとても痛かったです。特に、冬季合宿のランメニューと練習時間は1番多くて、大変疲れました。これは、私にとって非常に珍しい野球文化体験でした。

野球部での活動を通して、日本の挨拶、野球の練習方法など多くのものを学びました。また、多くの友達にも恵まれました。

鹿屋体大に留学できて本当に良かったです！



最後列が筆者

陳 冠宇

Chen Kuan Yu
体育学部交換留学生

打ち込めること、ひとつ。

課外活動

Extracurricular Activities



本学には、現在、23の体育系課外活動団体と1つの研究会があり、ほとんどの学生が加入しています。特に、多くの体育系課外活動団体では、全国規模の大会で優秀な成績を収めるなど、活発な活動を展開しています。課外活動は、学生が自主的に行う活動であり、社会の一員として必要な資質を身に付けたり、教養を高めるなどの大切な役割を担っています。また、課外活動を通じて得られるさまざまな体験は、学生生活をより充実させ、一生忘れることのできないすばらしい思い出にもなります。したがって、学生が各自の関心と適性にあった課外活動団体に所属し、より高い専門的知識や技能を身に付けるために積極的に活動することをお勧めします。

体育系課外活動団体	陸上競技部	(96)	ラグビー部	(11)	カヌー部	(22)
	硬式野球部	(42)	体操競技部	(31)	なぎなた部	(8)
	テニス部	(27)	水泳部	(42)	セパタクロー部	(10)
	男子バレーボール部	(10)	柔道部	(63)	ウインドサーフィン部	(12)
	女子バレーボール部	(21)	剣道部	(131)	アスレティックトレーナー部(専任)	(5)
	男子バスケットボール部	(28)	ヨット部	(8)	アスレティックトレーナー部(兼部)	(23)
研究会	女子バスケットボール部	(24)	漕艇部	(8)	ゴルフ部	(2)
	サッカー部	(94)	自転車競技部	(30)	ダンス部(専任)	(6)
					ダンス部(兼部)	(4)
	注) ()は平成29年5月1日現在の部員(会員)の数					
研究会	伝統文化・スポーツ研究会 (3)					



課外活動団体紹介



NIFSブログ

課外活動成績

陸上競技

- ①2010(平成22)年
日本学生陸上競技対校選手権大会
女子多種目優勝校(800m、1500m、棒高跳、槍投)
- ②2011(平成23)年
日本陸上競技選手権大会 男子砲丸投 2位
- ③2013(平成25)年
全日本大学女子選抜駅伝競走 総合2位
- ④2015(平成27)年
日本学生陸上競技対校選手権大会 女子棒高跳 3位
- ⑤2016(平成28)年
日本学生陸上競技対校選手権大会
女子10000m 1位(本学学生3連覇)



硬式野球

- ①2015(平成27)年
第1回鹿児島県社会人大学野球大会 優勝
- ②2015(平成27)年
鹿児島県秋季大学野球リーグ戦 準優勝
- ③2015(平成27)年
第94回九州地区大学野球選手権大会出場
- ④2016(平成28)年
第2回鹿児島県社会人大学野球大会 準優勝



男子バレーボール

- ①2010(平成22)年
ビーチバレージャパンカレッジ2010 1位
- ②2012(平成24)年
ビーチバレージャパンカレッジ2012 3位
- ③2015(平成27)年
ビーチバレージャパンカレッジ2015 3位
- ④2016(平成28)年
九州地区体育大会 優勝



女子バレーボール

- ①2010(平成22)年
第57回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール
大学女子選手権大会 優勝
- ②2011(平成23)年
全日本女子バレーボールチーム選出 中大路綾野(2年)
- ③2012(平成24)年
天皇・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 ベスト8
- ④2013(平成25)年
第60回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール
大学女子選手権大会 優勝
- ⑤2016(平成28)年
第63回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール
大学女子選手権大会 優勝



写真提供: 月刊バレーボール

男子バスケットボール

- ①2011(平成23)年度
九州学生男子1部リーグ戦 優勝
- ②2015(平成27)年度
九州総合選手権 準優勝
- ③2016(平成28)年
第91回天皇杯全日本総合バスケットボール選手権 出場
- ④2016(平成28)年度
九州学生男子1部リーグ戦 準優勝
- ⑤2016(平成28)年度
全日本学生選手権 出場





女子バスケットボール

- ①2005(平成17)年度
全日本学生選手権 準優勝
- ②2011(平成23)年度
九州学生女子1部リーグ戦 優勝(16年連続)
- ③2012(平成24)年度
九州総合選手権 優勝(全日本総合選手権出場)
- ④2015(平成27)年度
全日本学生選手権 9位
- ⑤2016(平成28)年
第82回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権 出場



水泳

- ①2004(平成16)年
第28回夏季オリンピックアテネ大会
女子800m自由形 優勝
- ②2008(平成20)年
第29回夏季オリンピック北京大会 出場
- ③日本学生選手権水泳競技大会 大学対抗女子優勝
(2005,2006,2007,2008,2012)
- ④2015(平成27)年
第28回ユニバーシアード競技大会 韓国・光州大会
女子200m平泳ぎ 優勝
- ⑤国際大会代表選手 17名輩出

- サッカー
- ①2011(平成23)年度
国民体育大会 優勝
 - ②2012(平成24)、2013(平成25)年度
全日本大学サッカー選手権大会 3位
 - ③2013(平成25)年度
全日本大学サッカートーナメント大会 3位
 - ④2011(平成23)年度～2016(平成28)年度
Jリーグ加入選手15名輩出
 - ⑤地域貢献活動 キッズサッカーフェスティバル



柔道

- ①全日本学生柔道優勝大会
女子三人制の部 優勝3回、3位2回
- ②2013(平成25)・2015(平成27)年
全日本学生柔道体重別団体優勝大会 男子5位
- ③2013(平成25)・2015(平成27)年
講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 優勝
(平成25年-48kg・平成27年-66kg)
- ④2015(平成27)年
ユニバーシアード光州大会 男子・女子団体優勝
(男子-66kg・女子-78kg代表)
- ⑤2015(平成27)年
柔道グランドスラムTOKYO2015 男子-66kg5位



ラグビー

- ①2002(平成14)年度
九州学生ラグビー1部リーグ 優勝



剣道

- ①全日本学生剣道優勝大会(団体)
優勝4回 2位2回 3位4回
- ②全日本女子学生剣道優勝大会(団体)
優勝9回 2位3回 3位2回
- ③全日本学生剣道選手権大会(個人)
優勝3回 2位2回 3位4回
- ④全日本女子学生剣道選手権大会(個人)
優勝6回 2位6回 3位6回
- ⑤全日本剣道選手権大会(個人)
出場(2015、2016<ベスト16>)
- ⑥全日本女子剣道選手権大会(個人)
優勝3回 2位5回 3位2回

- 体操競技
- ①2009(平成21)年
全日本種目別選手権大会 跳馬優勝
 - ②2010(平成22)年
ワールドカップ・カタール国際大会 つり輪2位
 - ③2012(平成24)年
アジア・シニア選手権大会 団体総合2位
 - ④2016(平成28)年
ワールドカップ・カタール国際大会 鉄棒優勝
 - ⑤2016(平成28)年
ワールドカップ・ハンガリー大会 鉄棒2位



ヨット

- ①2008(平成20)年
全日本学生ヨット選手権大会 スナイプ級1位
- ②2010(平成22)年
レーザ級世界選手権大会出場
- ③2011(平成23)年
全日本学生ヨット個人選手権大会 スナイプ級1位
- ④2013(平成25)年
全日本学生ヨット選手権大会 総合6位入賞
- ⑤2015(平成27)年
全日本学生ヨット選手権大会 スナイプ級1位





漕艇

- ①2008 (平成20) 年
第86回全日本選手権大会 女子シングルスカル 第6位
- ②2010 (平成22) 年
第37回全日本大学選手権大会 女子ペア 第6位
- ③2013 (平成25) 年
第40回全日本大学選手権大会 女子シングルスカル 第6位
- ④2015 (平成27) 年
第42回全日本大学選手権大会 女子シングルスカル 第8位
- ⑤2016 (平成28) 年
第43回全日本大学選手権大会 女子シングルスカル 第4位

自転車競技

- ①2012 (平成24) 年 ロンドン五輪
関係者2名出場
- ②2016 (平成28) 年 リオデジャネイロ五輪
関係者2名出場
- ③2015 (平成27) 年 世界トラック選手権 (パリ)
女子ポイントレース 銀メダル
- ④2006 (平成18) 年 ドーハアジア競技大会
女子ロードレース 金メダル
- ⑤2014 (平成26) 年 仁川アジア競技大会
男子オムニウム 金メダル
- ⑥2016 (平成28) 年 全日本インカレ男女総合優勝
(男子: 4年連続4回目、女子2年連続13回目)



カヌー

- ①2016 (平成28) 年
ワールドカップ 第1戦、第2戦、
女子カヤックシングル 出場
- ②2016 (平成28) 年
全日本カヌースプリント選手権大会
カナディアンペア200m 500m 1000m 優勝
- ④2016 (平成28) 年
全日本カヌースプリント選手権大会
カヤックペア1000m 第2位
- ③2016 (平成28) 年
第52回日本学生カヌースプリント選手権大会
女子カヤックシングル 200m 優勝
- ⑤2016 (平成28) 年
第52回日本学生カヌースプリント選手権大会
男子カナディアン部門 優勝



なぎなた

- ①2011 (平成23) 年度
第50回全日本学生なぎなた選手権大会
団体試合の部 準優勝
- ②2012 (平成24) 年度
第51回全日本学生なぎなた選手権大会
団体試合の部 準優勝
- ③2013 (平成25) 年度
第52回全日本学生なぎなた選手権大会
個人試合の部 優勝
- ④2015 (平成27) 年度
第54回全日本学生なぎなた選手権大会
団体試合の部 優勝 個人試合の部 優勝
- ⑤2016 (平成28) 年度
第55回全日本学生なぎなた選手権大会
団体試合の部 優勝 個人試合の部 第3位
演技競技の部 第3位



セパタクロー

- ①2004 (平成16) 年度
全日本学生セパタクロー選手権 準優勝 (女子)
- ②2009 (平成21) 年度
全日本学生セパタクロー選手権 3位 (男子)
- ③2015 (平成27) 年度
全日本ビギナーズカップ 準優勝 (男子)
- ④2016 (平成28) 年度
全日本セパタクロージュニア選手権大会 ベスト16

ウインドサーフィン

- ①2013 (平成25) 年
全日本学生ボードセーリング選手権女子4位
- ②2013 (平成25) 年
国民体育大会女子国体ウインドサーフィン級6位
- ③2014-2016 (平成26-平成28) 年
全日本学生ボードセーリング選手権大会 出場
- ④2014-2016 (平成26-平成28) 年
全日本学生ボードセーリング選手権大学対抗戦 出場
- ⑤2015-2016 (平成27) 年
PWAツアー (ウインドサーフィンワールドカップ) 出場



アスレティック
トレーナー

アスレティックトレーナー部は、様々な課外活動団体に所属している学生で構成されています。週1回の勉強会に加えて各課外活動団体での実践を普段から心がけるとともに、優秀な選手やトレーニング設備等が数多くあるなど本学の多くの利点を生かしていくことを目指しています。

ゴルフ

- ①2011 (平成23) 年度
ドラコン日本選手権 出場
- ②2012 (平成24) 年度
鹿児島県大学ゴルフ選手権 4位





霧島ヶ丘公園(かのやばら園)

人と自然が輝くまち 地域の恵みが 響きあうまち

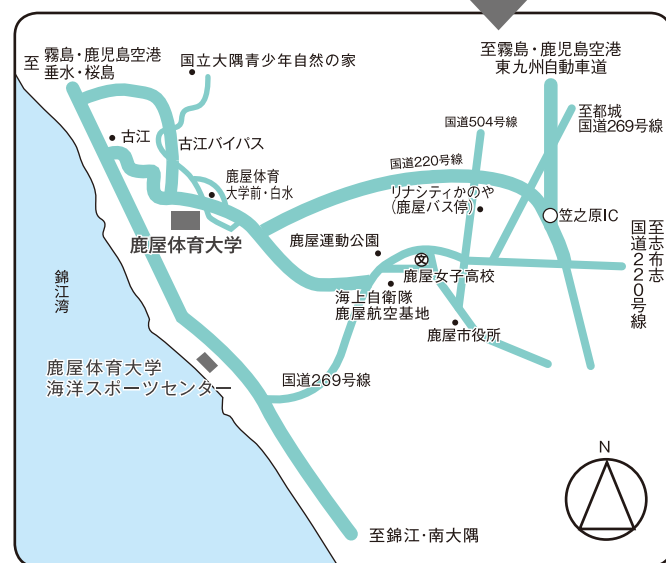
鹿児島県の県庁所在地である鹿児島市からフェリーで東へ約45分乗船し、到着した垂水(たるみず)市からバスでさらに南東へ約30分揺られると、雄大な高隈(たかくま)山系の裾野に広がる鹿屋体育大学が出現します。

大隅半島の中核都市である鹿屋市は、自然が豊かで、その恵みである良質の農産物や海産物、畜産物を安く食することができます。上質の栄養補給が必要なアスリートにとって、まさに最適な環境といえます。

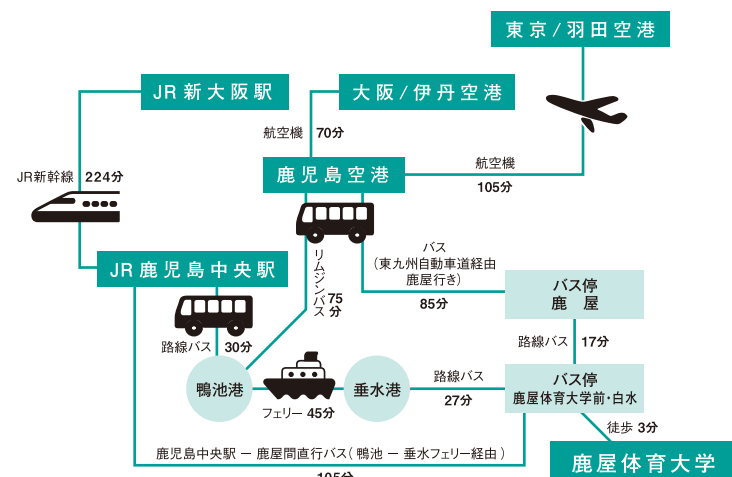
また、気候が温暖な本土最南端に位置するため、1年中スポーツに打ち込むことができます。そんな鹿屋市で、あなたも未来を拓いてみませんか？

所在地

Location



交通手段



充実の環境が、 キャンパスライフを サポートする。

福利厚生

Community Service Facilities

学生・教職員の福利厚生増進のため、キャンパス内に食堂、売店、理・美容室、ATMなどがあります。学生の憩いの場として「学生ラウンジ」を設け、学生相互のコミュニケーション等に利用されています。

また、学生・教職員の健康の保持・増進を図るための施設として、「保健管理センター」があり、健康等に関する助言・指導や、傷害に対する救急処置等を行っています。

課外活動、本学主催の講習会・研修会・スポーツ交流会等に利用できるように、宿泊室や研修室等を備えた「合宿研修所」が設置されており、最大で113名が宿泊できます。



保健管理センター



●体組成計



●酸素カプセル



●マッサージ器



学生ラウンジ



売店



理・美容室



ATM



学生食堂(朝食バイキング)



合宿研修所



ロッカー室

日本学生支援機構

(1) 第一種奨学金（無利子）

人物・学業共に特に優れかつ健康であって、経済的理由により著しく就学困難と認められる者に貸与されます。

(2) 第二種奨学金（有利子）

人物・学業共に優れかつ健康であって、経済的理由により著しく就学困難と認められる者に貸与されます。

(3) 入学時特別増額貸与奨学金（有利子）

日本政策金融公庫の教育ローンを低所得を理由に受けられなかった世帯向け。人的保証制度に代わる機関保証制度により、保証人がいない場合でも一定の保証料を支払うことにより奨学金を貸与されることがあります。

【貸与金額】（平成29年4月1日）

大学	・第一種奨学金（無利子） 自宅通学者：45,000円または30,000円、 自宅外通学者：51,000円または30,000円 ・第二種奨学金（有利子） 3・5・8・10・12万円から選択
大学院 （修士課程）	・第一種奨学金（無利子） 88,000円または50,000円 ・第二種奨学金（有利子） 5・8・10・13・15万円から選択
大学院 （博士後期課程）	・第一種奨学金（無利子） 122,000円または80,000円 ・第二種奨学金（有利子） 5・8・10・13・15万円から選択
入学時増額貸与	（有利子）10・20・30・40・50万円から選択

学費

School Expenses

入学料等（平成29年度実績）

区 分	金 額	納 入 時 期
入学料	282,000円	入学手続時
授業料	前期	267,900円
	後期	267,900円
その他経費 （各種保険料等）	75,200円	入学手続時

学費の免除

(1) 入学料免除

入学前1年以内に、入学する者の学資を主として負担している者（学資負担者）が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより入学料の納付が著しく困難であると認められる者は、願出により入学料の全額又は半額が免除されることがあります。（大学院生は経済的理由で申請可）

(2) 授業料免除

次に該当する者は、願出により授業料の全額又は半額が免除されることがあります。

- 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
- 入学前1年以内に、学費負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けた者

(3) 入学料特別免除

入学前の競技成績（大学院は入試成績）の特に優れた者に対し実施します。AO(SS)入学者は全員、推薦入試入学者は競技成績により選考。（申請不要）

(4) 授業料特別免除

在学中の競技成績又は学業成績の特に優れた者に対し実施します。（申請不要）

鹿屋体育大学 日本学生支援機構 奨学生数一覧

入学年度	学 部						大学院					
	学生数 a	一種	二種	併用 （一種＋二種）	貸与 人数 b	貸与 比率 b/a	学生数 c	一種	二種	併用 （一種＋二種）	貸与 人数 d	貸与 比率 d/c
25	200	37	76	8	105	53%	—	—	—	—	—	—
26	194	54	78	16	116	60%	10	4	0	0	4	40%
27	178	47	68	13	102	57%	27	14	0	0	14	52%
28	176	47	69	17	99	56%	24	10	2	2	10	42%
合計	748	185	291	54	422	56%	61	28	2	2	28	46%

注）地方公共団体や民間の育英奨学事業団体等の奨学金もあります。

奨学金

Scholarships

教育研究活動中の不慮の災害事故の補償や、課外活動中・往復中の事故の補償のほか、他人への賠償等のために、次のような各種傷害保険を準備しています。なお、学部学生は、入学時に学生教育研究災害傷害保険及びスポーツ安全保険に全員加入しています。

学生教育研究 災害傷害保険	学生が体育実技や実験実習等の正課の授業中、学校行事、課外活動中等、教育研究活動中の事故や通学中等の事故によって被った傷害に対して、補償する制度。本学では、学生が安心して学業に励むことができるように入学時に全員加入いただいています。	保険料：3,300円（4年間） 1,750円（2年間）	
スポーツ 安全保険	課外活動団体等でスポーツ活動、指導活動等を行う者がその活動中や往復中に生じた事故によって傷害を被った場合や他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりして損害賠償を負った場合、補償する制度。本学では、学生が安心して課外活動ができるように入学時に全員加入していただきます。	保険料：7,400円（4年間） 3,700円（2年間）	
傷害 総合保険	教育研究活動中のみならず日常生活で生じたさまざまな事故に対して、総合補償する制度。損害賠償制度や学費・育英費用にも対応しており、加入は、任意となっています。	保険料	自宅 41,000円 寮・アパート 49,000円（4年間） 自宅 22,000円 寮・アパート 26,000円（2年間）
		保険料	自宅A56,610円 一人暮らしD62,600円（4年間） 自宅B41,220円 一人暮らしE47,210円 自宅C36,790円 一人暮らしF42,780円

※平成29年4月現在

傷害保険

Casualty Insurance



学生宿舎は、大学敷地の一角に位置し、1棟70名収容の建物が5棟設けられています。

部屋はすべて個室（約6畳）で、収容人員は350名（男子280名、女子70名）、現在、在学生全体の約4割の学生が入居しています。

棟内は、居室のほか、各階に共用施設として補食談話室、洗面・洗濯室、浴室、トイレ等があります。

寄宿料等は、1ヵ月当たり13,800円（寄宿料4,300円、運営費6,500円、居室電気料3,000円）です。規則正しい生活を送れるように、学部1年生から3年生については学生食堂での朝食摂取を入居の条件としています。

朝食代：年額70,290円（平成29年度実績）、年度当初に前納（理由がある場合は、事前の欠食届の提出により返金）

名 称	1居室面積・構造	居室数（個室）	備 考
A 棟	約10㎡・鉄筋5階	70	男 子
B 棟	〃	70	男 子
C 棟	〃	70	女 子
D 棟	〃	70	男 子
E 棟	〃	70	男 子



学生宿舎

Student Dormitories

○管理運営

管理運営業務は、学生課が担当し、宿舎敷地内の共用棟に管理人を置いています。なお、入居者が自主的に規律ある共同生活を行うため、自治組織として「学生宿舎会」が設けられています。

○入居者の選考方法

入居者の選考は、所定の規則に基づき、宿舎生活に支障がないこと、自宅からの通学距離が30km以上であること、経済的な困窮度が高いこと、入居後の生活態度等を勘案して行います。抽選や、先着順などではありません。なお、新入生は、優先的に入居できるように在学生よりも枠を多く設けるなど配慮しています。

○自動車等

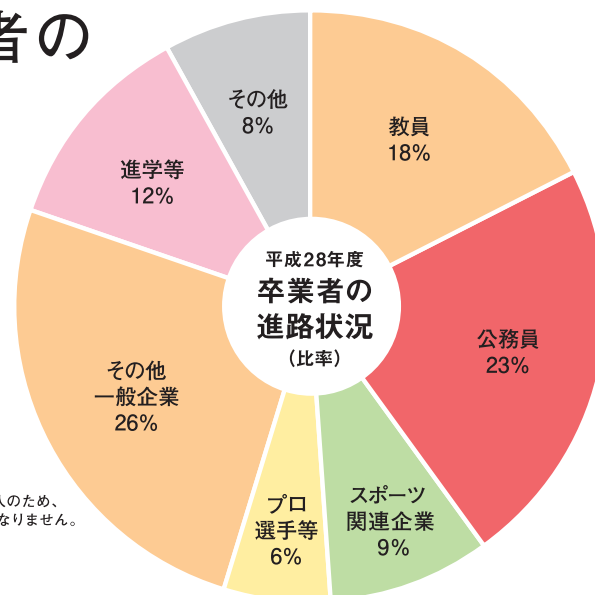
駐車場及び駐輪場を設置しています。駐車場の使用は無料ですが、許可が必要です。

大学周辺には、多くのアパートが点在しており、本学学生も入居しています。家賃は月額25,000円～50,000円（6畳～8畳）です。詳しくは、学生課にお問い合わせください。



平成28年度卒業者の進路状況

平成29年3月に卒業した学生の職業別進路状況は、右の円グラフに示すとおりです。



(注) 小数点以下四捨五入のため、合計しても100%になりません。

主な就職先

最近5年間にける職種別の主な就職先は、以下のとおりです。

・教員 (臨時的任用教員・非常勤講師を含む)

北海道、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県など

・公務員

行政職：鹿屋市、坂出市、名護市、桜川市、伊勢崎市、岡谷市、名古屋市、鳥取市、大府市など
警察官：皇宮警察、警視庁、北海道警、愛知県警、京都府警、大阪府警、兵庫県警、広島県警、福岡県警、佐賀県警、熊本県警、鹿児島県警など
刑務官：東京拘置所、札幌刑務所、甲府刑務所、岐阜刑務所、奈良刑務所、加古川刑務所、麓刑務所、熊本刑務所、大分刑務所、宮崎刑務所、鹿児島刑務所など
消防士：東京消防庁、大阪市、一宮市、佐世保市、福岡市、尼崎市、春日井市、広島市など
その他：陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、自衛隊体育学校、青年海外協力隊など

・スポーツ関連企業

ルネサンス、セノー、ヒマラヤ、セントラルスポーツ、広島東洋カープ、カーブスジャパン、モンベル、ゼビオ、東大阪スタジアム、太陽スポーツクラブ、THINKフィットネス、ドームヒューマンキャンパス、デサントなど

・競技団 (プロ・実業団等)

サッカー：サガン鳥栖、Vファーレン長崎、アビスパ福岡、愛媛FC、ロアッソ熊本、鹿児島ユナイテッドFC、ブラウブリッツ秋田、ガイナレ鳥取、栃木SC、ギラヴァンツ北九州、ホンダロックSC、ブリオベッカ浦安
バレーボール：久光製薬スプリングス、日立リヴァーレ、PFUブルーキャッツ、黒部アクアフェアリーズ、大野石油広島オイラーズ、フォレストリーヴズ熊本、富士通テンレッドフェニックス
バスケットボール：新潟アルビレックス、レバンガ北海道、AC播磨イーグレッツ、OTCきくや、山梨クイーンビーズ、羽田ヴィッキーズ
自転車：TeamUKYO、宇都宮ブリッツェン、NIPPO VINIFANTINI De Rosa、チャンピオンシステム、愛三工業レーシングチーム
陸上競技：鶴屋百貨店、資生堂ジャパン、エディオン、デンソー、ナンチク、京セラ

・一般企業

楽天、高松建設、ANA新千歳空港、長島観光開発、大隅鹿屋病院、河合楽器製作所、日本郵政、ニプロ、JTB、JR九州、伊藤忠エネクス、大創産業、鹿児島テレビ、福岡放送、南日本放送、マイナビ、アイケイケイ、鹿児島銀行、日本生命保険、第一生命保険、SMBC日興証券、セブン-イレブン・ジャパン、ゼンショー・ホールディングス、鹿児島空港ビルディング、ジャニーズ事務所、サカイ引越センターなど

・進学

鹿屋体育大学大学院、筑波大学大学院、東京大学大学院、埼玉大学大学院、熊本大学大学院、愛知教育大学大学院、福岡教育大学大学院、九州大学大学院、航空大学校など

キャリア形成支援室

キャリア形成支援室は、就職やキャリア形成について学生の皆さんをサポートするためのセクションで、以下の設備等を備えており、学年に関係なくだれでも利用できます。

- ・インターネットによる就職情報等を検索できるパソコン (3台) (利用時間／8:30～17:15)
- ・求人資料、各種就職専門書・専門雑誌、資格試験雑誌等
- ・貸出用就職関係図書、DVD



就職相談員

キャリア形成支援室には、就職相談員を配置し、就職相談に対応しています。
相談曜日は、原則として水・木となっています。



就職対策

・教員対策・公務員対策

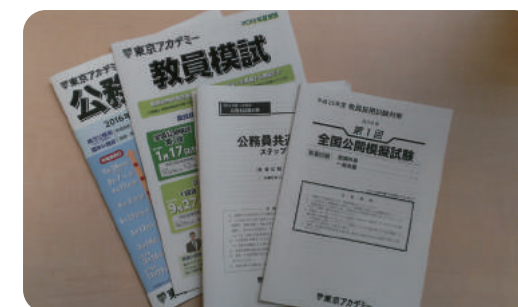
模擬試験を年数回実施しています。また、希望者に対しては、模擬面接も随時実施しています。

・就職塾

年数回、休日を利用して外部講師を招いて「就職塾」を開講しています。この企画では、職業選択や自己分析についてアドバイスをいただくとともに、履歴書の書き方や面接の心構えについても指導してもらいます。

・合同企業説明会バスツアー

年1～2回福岡市で開催される合同企業説明会に、借り上げバスを利用して「日帰りバスツアー」を行います。



平成29年度入学者選抜実施結果

スポーツ総合課程

単位：人

区 分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
AO(SS)入試	10	5(1)	5(1)	5(1)	5(1)
推薦入試	50	83(26)	83(26)	55(18)	55(18)
一般入試	60	295(49)	270(40)	70(8)	70(8)
特別入試	帰国子女	若干人	1(1)	1(1)	1(1)
	社会人	若干人	3(0)	3(0)	1(0)
私費外国人留学生入試	若干人	2(0)	2(0)	1(0)	1(0)
計	120	389(77)	364(68)	133(28)	132(27)
第3年次編入	20(注)	51(11)	49(10)	20(1)	20(1)

()は、女子で内数。 注) 第3年次編入の募集人員は、スポーツ総合課程と武道課程と共通。

武道課程

単位：人

区 分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
AO(SS)入試	5	5(4)	5(4)	5(4)	5(4)
推薦入試	20	27(11)	27(11)	20(8)	20(8)
一般入試	25	51(11)	49(10)	29(7)	28(7)
特別入試	帰国子女	若干人	0(0)	0(0)	0(0)
	社会人	若干人	0(0)	0(0)	0(0)
私費外国人留学生入試	若干人	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	50	83(26)	81(25)	54(19)	53(19)
第3年次編入	20(注)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

入試情報

平成29年度出身地別入学者数

(出身高等学校等所在地による都道府県別内訳)

合計185(46)

(第3年次編入学者は除く)

※()内は女子で内数

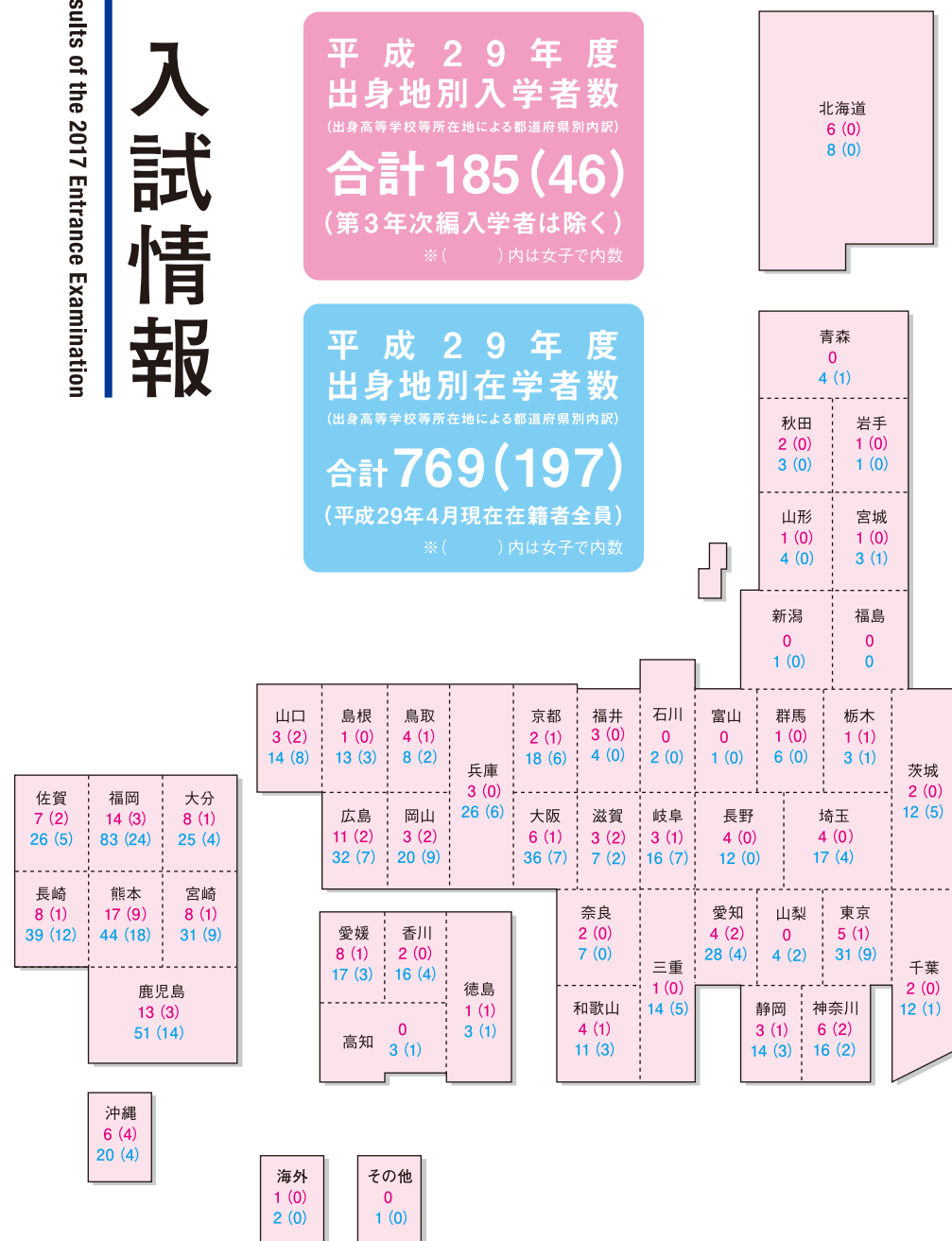
平成29年度出身地別在学者数

(出身高等学校等所在地による都道府県別内訳)

合計769(197)

(平成29年4月現在在籍者全員)

※()内は女子で内数



平成30年度入学者選抜

選 抜 方 法

次の選抜方法により実施します。

- AO(SS)入試*
- 推薦入試
- 一般入試(面接及び実技検査による選抜)
- 帰国子女入試
- 社会人入試
- 私費外国人留学生入試
- 第3年次編入学試験

*SSとは、スーパー・スチューデント(Super Student)の略で、競技能力の特に高い者を指します。

選 抜 方 法 の 概 要

平成30年度入学者選抜要項は平成29年7月配付予定です。

選 抜 要 項 の 請 求

封筒の表に「平成30年度選抜要項請求」と朱書きし、返信用封筒(角形2号封筒に宛名明記・140円切手を貼付)を同封の上請求してください。

請 求 先

〒891-2393
鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学教務課入試係
TEL(0994)46-4869

資 料 請 求



テレメール



モバっちょ

大学説明会及び体験授業 (鹿屋体育大学白水キャンパスで開催)

第1回

平成29年7月15日(土) 10:20~16:00

本学の特色や教育・研究の内容について理解を深めてもらうとともに、施設見学等により、進路選択の参考としてもらうために次のとおり実施します。受験生、保護者、高校の先生方など多数の参加をお待ちしています。

①在学生からのアドバイス ②質疑応答 ③実験、実習体験を含む施設見学 ④大学案内・入試資料・記念グッズ配付



体験授業

本学の教育・研究内容を少しでも知っていただくために、高校生受験希望者(保護者を含む)を対象に次のとおり体験授業を企画いたしました。多数の参加をお待ちしています。

実施日 平成29年7月16日(日)

区分	科目名	担 当	授業内容	時 間	募集人員
A	最新のトレーニング科学情報	荻田 太	近年急速に研究が進んでいる高強度トレーニング効果について解説します。	9:00 ~ 10:10 (70分)	100名
B	スピード・パワー系のトレーニング	小森 大輔	ジャンプトレーニングを実践し、跳躍能力を向上させよう。	10:30 ~ 11:40 (70分)	30名



第2回

平成29年10月14日(土) 10:20~16:00

東京サテライトキャンパスでの大学説明会

(所在地:東京都文京区大塚3-29-1)

- 第1回 平成29年5月21日(日)
- 第2回 平成29年6月18日(日)
- 第3回 平成29年8月12日(土)
- 第4回 平成29年8月13日(日)
- 第5回 平成29年11月 5日(日)
- 第6回 平成30年1月21日(日)
- 第7回 平成30年3月18日(日)

※時間はいずれの回も13時(受付)~16時30分
※日程は変更になることがあります。



詳細については、本学ホームページをご覧ください。



インターネット

<http://www.nifs-k.ac.jp/>

鹿屋体育大学のホームページを開設しています。学部・大学院の詳しい内容やキャンパスライフ、入試情報などをお知らせします。

本学ホームページ



トップページ



研究者の紹介